

長崎県新上五島町（上五島地区・有川地区）における藻場再生・保全活動

新上五島町・上五島町漁協・(株)E-SYSTEM・(株)東陽テクニカ



☆プロジェクトの概要

長崎県新上五島町は、「つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立するしま」を将来像として、基幹産業である水産業の振興はもとより、豊かな海を守りながら水産業が共存し続けるまちを目指す“里海”づくりにも取り組んでいます。

新上五島町（上五島地区）では、ウニ類の食害等による磯焼け現象が発生したため、上五島町漁協の潜水部会メンバーは、2015年から毎年6～7月にウニ類（ガンガゼ、ラッコウニ等）の駆除を継続して行っています。

潜水部会の強みは、駆除作業に適したフーカー式潜水であるため、徹底した駆除作業が可能であり、徹底したウニ駆除の結果、小型藻類の植生変化が徐々にみられ、2020年以降は小型褐藻類（アミジグサ）が繁茂するようになりました。

さらにこのアミジグサを母藻として別の漁場に母藻のスポアバッグ投入を続けています。

☆プロジェクトの特徴・PRポイント

新上五島町では、持続的な藻場再生を目指す潜水部会を中心とする漁業者と上五島町漁協及びカーボンニュートラルへの貢献を目的とする民間企業（株）E-SYSTEM、（株）東陽テクニカ）、そして磯焼け問題の研究を行ってきた長崎大学と連携し「新上五島地区藻場再生・保全活動組織」を発足しました。これにより藻場再生及び保全活動の活性化につなげていきます。

今回取得したクレジットは、新上五島町（上五島地区）の今後の藻場再生・保全活動資金として、活動を継続します。

更には、今回の新上五島町（上五島地区）での取り組みを起点として、カーボンニュートラルへの関心度を高め、次回申請予定としている新上五島町（有川地区）における地域住民等と長崎大学を合わせて産学官民の連携した藻場保全活動につなげ、活動区域を広げつつより多くのCO2吸収源の拡大に向けた展開を図っていきます。



①磯焼けの様子 2015年7月



②ウニ駆除 2015年から毎年継続



③アミジグサ出現 2020年6月8日



④アミジグサ植生 2023年7月6日



2024年6月5～6日調査実施
植生探査ソナーによる測量



ソナー発信機



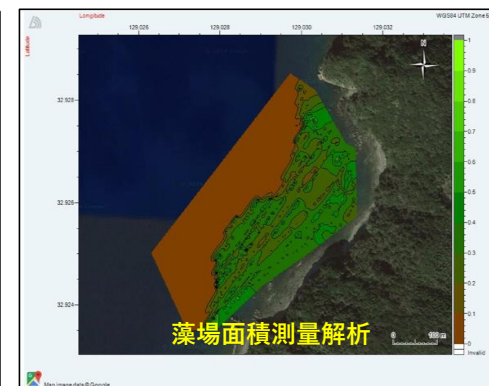
ドローンによる撮影



坪刈り25×25cm
アミジグサ



調査時の海藻の様子
2024年6月6日



藻場面積測量解析